

御嶽山の噴火にかかるヘリ調査結果について

調査日時：平成 26 年 9 月 28 日 6:00～8:30

調査者：国総研土砂災害研究部 國友土砂災害研究室長
土木研究所土砂管理研究グループ 石塚上席研究員
藤村主任研究員
中部地方整備局河川部 阿部建設専門官

【所 見】

- ・ 噴火口は、山頂南側～西側にかけて、3 か所確認された。この 3 か所の中では、中央の火口が最大であった。
- ・ 噴煙は白く、火山灰を多く噴出しているようには見えなかった。
東よりの火口からは時折有色噴煙が確認された。
- ・ 降灰は風下である東側の開田高原方面中心に確認された。
- ・ 山頂から約 4 kmの御嶽ロープウェイスキー場でうっすらとした降灰が確認できたが、東端は不明瞭な状況である。
- ・ 開田高原別荘地より東側では、上空からは降灰は確認できなかった。
- ・ したがって、開田高原方面へは注意が必要であるため、地上調査を実施。
- ・ 南方向には、滝越の C C T Vにより噴煙の流下が確認された濁沢方面は、谷底に火山灰は確認できたが、厚く堆積している状況にはなかった。人家のある滝越地区周辺では上空から降灰は確認できなかった。
- ・ 西側の岐阜県側も顕著な降灰は確認できなかった。

※火山噴火予知連絡会の見解(H26 年 9 月 29 日 16 時)を踏まえ、文言を一部修正しました。

別紙

中部地方整備局
へり調査概要
平成26年9月28日
6:00-8:30

降灰が見られた範囲

火口位置

降灰状況調査範囲

- ・火口は山頂南側～西側にかけて、3か所確認された。
- ・噴煙は白く、火山灰を多く噴出しているようには見えなかった。東よりの火口からは時折有色噴煙が確認された。

山頂から御岳ロープウェイ
スキー場にかけて降灰が見られる